

# 令和3年度岩見沢市子ども・子育て会議

## えみふる ふぁいるに関する専門部会

日 時 令和4年2月25日（金）午後6時00分

場 所 であえるホール であえる地下1階

1 開 会

2 議 事

(1) えみふる ふぁいるの配付状況

(2) 令和3年度の取り組み

① 3歳児健診等での声かけについて

② 活用のためのPR・情報発信等について

③ 関係機関との連携（保護者支援）について

(3) 今後の方向性

① 保護者向けの取り組み

② 支援者向けの取り組み

3 その他

4 閉 会

事務局	1 開会(18:00)
事務局	2 議事
A	みなさんご協力のほどよろしく申し上げます。それでは、さっそくですが、議事に進みます。 (1) えみふる ふぁいるの配布状況について、事務局から説明してください。
事務局	はじめに、えみふる ふぁいるの趣旨について、説明させていただきます。 えみふるふぁいるは子どもが生まれてから高校を卒業するまでの各ライフステージにおいて、成長や健康、発達などを記録することができる成長記録ファイルとなっています。令和元年9月の1歳6か月健診から全員に配布を開始しています。また、ファイルは市内在住の18歳以下の子どもを対象としており、保護者からの求めがあれば子育て総合支援センターや教育支援センター、市役所福祉課、市立病院小児科の窓口でも配布しております。 配布後の保管は子ども及び保護者となっています。 次に、②活用の流れですが、性質の移り変わりを3つのステージに分け、目的やアプローチの方法について示しています。「成長記録を収めるファイ

	<p>ル」として、スタートし、子どもの成長が進むにつれ、発達などで心配なつまづきがあった時に、このファイルを持って母子保健や福祉、教育、医療など様々な機関で相談や支援を受けることにより、発達支援ファイルに変化します。その後の支援等をスムーズに進めることができたり、ファイルをもとに関係機関が情報を共有し、切れ目のない一貫した支援を提供するなどの効果が期待されます。</p> <p>続いて、えみふるふぁいるの配布状況についてご説明いたします。</p> <p>令和元年度は267冊、令和2年度は431冊、令和3年度は1月末時点で506冊と徐々に増えています。</p> <p>配布状況の詳細は資料1右上の表のとおりですが、1.6歳児健診については、必要部数が配布されています。</p> <p>配布数が、昨年度と比較して増加している項目について、説明致します。</p> <p>3歳児健診については、令和元年9月に配布した対象児が1年半が経過し、令和3年3月より3歳児健診の際にアンケートや声かけを行っており、その際に、転入者やファイルの紛失者に対して配布した数となります。</p> <p>子育て総合支援センターについては、専門職による相談の際に配布し活用してもらえるよう声かけをしていることが主な増加要因となります。また、資料4のとおり、9月号にて「えみふるふぁいる特集」を行ったことも、要因の一つとなります。</p> <p>広報いわみざわ9月号については、実際にえみふるふぁいるを活用して下さっている保護者（モーター）の方へのインタビューをもとに活用方法について紹介していますので、詳細については、後ほどご覧ください。</p> <p>子育て支援係分については、窓口で希望された保護者の方、光が丘学園や、学校への配布分が含まれています。今年度から、小学校・中学校については、「個別の教育支援計画」と同時にファイルの配布もされています。</p> <p>続いて、ことばの教室については、教室を利用する際に作成する計画書をファイルに綴ってお渡ししていることから、配布数が若干増加しています。</p> <p>配布状況については、以上となりますが、配布の主となる1.6か月健診以外の場でも、必要とされる方への、配布と声掛けのご協力を今後も宜しくお願い致します。</p>
A	<p>よろしいですか。質問が無ければ、次に、議事の（2）令和3年度の取り組み、3点ありますので、順番に進めていきたいと思っております。</p> <p>最初に、①3歳児健診・えみふるふぁいるに関するアンケートの結果について、説明をお願いします。</p>
事務局	<p>まず、「3歳児健診等での声掛け」についてです。</p>

	<p>令和3年8月より、保護者向けに活用シートを作成いたしました。3歳児健診の際に、保護者が記入した問診票のコピーと一緒にこの活用シートをお渡ししています。「記録する」「集める」「相談する」の3つの活用例を提案しています。同様に、令和3年の8月の1.6か月健診からも、ファイルの2頁目に綴って、お渡ししています。続いて、アンケート調査結果についてです。</p> <p>令和元年9月に配布した最初の対象児が、令和3年3月に1年半が経過し、3歳児健診を迎えています。その間の活用状況を把握するため、令和3年3月から3歳児健診対象児の保護者にアンケートに記入いただき、344名から回収いたしました。結果については資料1左下のグラフのとおりですが、72%にあたる248人が「持っている」と回答する一方で、28%にあたる96人が「ファイルをどこにやったかわからない」との回答でした。</p> <p>続いて、その下のグラフをご覧ください。えみふるふぁいるを持っていると答えた248人のうち、206人が未使用で、42人の方が記録や保管という形でご使用いただいております。使用率は12.2%という結果です。利用していただいている方のうち、「ポケットに写真や作品を保管」や「成長の記録」、「保育園や幼稚園での記録」として活用している方が多い結果となりました。</p> <p>自由記載欄では、「サイズが大きい」や「使うきっかけが無い」、「紙媒体で保管することに抵抗がある」といった意見が多くありました。</p> <p>一方で、集めた書類や相談内容を一目で読み返せて管理しやすいや、相談機関で相談した内容を幼稚園で伝えるときに便利といった、ファイルをうまく活用できている意見もあったことから、ファイルの活用の場面やメリットを適切に伝える普及啓発が引き続きの課題となる結果となりました。</p>
A	<p>身近なところでの意見、なるほどと思います。3歳児健診時に、ふぁいるを持参いただく際に合わせて実施しているアンケート調査の結果について説明がありましたが、委員の皆さま、いかがでしょうか？</p>
B	<p>アプリがいいという意見がありますが、お母さんたちは、外からもらったものを入れるというよりも、写メってしまう習慣あります。<u>アプリを使う場合、セキュリティの問題があります</u>が、画像もストックできるのはいいと思います。</p>
A	<p>全員に配布するファイルですから、継続的に使ってもらえるようにしていきたいのですが、現場の意見としては、いかがでしょうか。</p>
L	<p><u>ファイルをお持ちの多くのお子さんが3歳を超えたばかりで、また、活用の実感がわく年齢ではない状況にあり、これからの期待したいと考えています。</u></p>

A	あまり詳しくはお話しできませんが、ある市町村で何年もかけて同様なファイルの配布を続けていて、それを持っている高校生からの相談を受けたとき、情報源として役立ったと実感した事例があります。
B	<u>ファイルのサイズのことも考えなければなりません。</u> サイズが小さいと、なくしてしまうことがあります。なくさないためには、わざわざ大きなサイズにしておくことも良いと思います。楽しい時の情報源として、幼稚園の卒園のお祝いなどの記録をファイルに挟んでもらうこともいいと思います。
A	<u>学齢期になったときに、どうファイルをイノベーションしていくかも大事</u> になりそうです。
B	コロナにかかった場合、記録してファイルに入れておくといいかも知れません。
A	ほかにご意見が無ければ、次に、②活用のためのPR・情報発信等について、説明お願いいたします。
事務局	<p>引き続き、令和3年度の主な取組の2点目、「情報発信」について、私、森の方からご説明いたします。</p> <p>1年前の会議で委員の皆さまからいただいたご意見を基に、保護者に使い続けてもらうこと、さらには支援者に活用を拡げていくことを目的として、情報発信の取組を進めてまいりました。</p> <p>そのなかで、支援者向けポスターについてですが、相談をうけた支援者がふぁいるを持っているかを声掛けしたり、持ってくるよう促したり、支援につなげるための啓発ツールとして、事務所や相談室の目につきやすい位置に掲載いただくために作成し各機関へ配付しております。</p> <p>続いてのオプションシートの設定についてですが、「成長曲線」「相談記録シート」「心理検査や発音の記録シート」の3種類のシートを新たに設け、市ホームページにアップすることで、保護者や支援者が、必要なときに使用いただけるかたちとしています。</p> <p>なお、相談に係る2種のシートについては、昨年度から子育て総合支援センターで運用しています。今年度も個別ケースの支援者会議などを通じて、他の支援者にシートの役割や意義等を周知するほか、保護者へのフィードバックに活用するなど、各機関での実践へ拡げていく取組を行っています。</p> <p>最後に支援者向けの説明会の開催についてですが、ポスターやシートと合わせて、保育園や幼稚園、学校、発達支援事業所の関係者を対象に、ふぁいるの活用に関する説明会を開催し、意見交換を行いました。</p> <p>学校の特別支援学級の先生からは、支援級につながるタイミングの一つで</p>

	<p>ある就学相談後の面談時における、ふぁいるの配付は保護者の受容がない場合難しい場面であると思われるが、市教委で頑張ってもらいたいや、保護者がファイルを持つことのメリットとして、様々な相談場面で同じ説明を繰り返さなくても良いことなども、積極的に伝えていってはどうかなどの意見をいただきました。また、幼稚園においては、入園の際の保護者面談で、3歳児健診の間診票をもとに確認する場面もあるなど活用している状況がうかがえましたが、園での関わりに有効な手がかりにはまだ至っていないとのご意見などもいただきました。</p>
A	<p>支援者向けの説明は、このことだけのために開催したのですか。</p>
事務局	<p>事業所部会以外は、ファイルの説明だけのために、オンライン形式も含めて開催しています。</p>
A	<p>成長曲線などオプションシートの活用も広がるといいですね。ほかに、なければ、次に、ファイルの活用方法として、③関係機関との連携について、説明お願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、実際に「えみふるふぁいる」を活用する現場の支援者の立場として、今年度の取組、特に連携に関わるものを一部ご紹介します。</p> <p>はじめに支援者会議での活用です。子育て総合支援センターでは、「支援者会議」という名で、必要性の高いケースについて、発達支援における関係者の自主的な会議を主催することがあります。</p> <p>そのケースに関わりのある機関（療育の機関と幼稚園、学校、医療機関など）が集まって、見立てや支援の方針を共有し、親子に対して包括的な支援を提供することが目的です。</p> <p>この会議は、保護者の方に参加していただく場合もありますが、支援者のみでおこなうこともあります。</p> <p>保護者抜きでおこなわれた会議の場合は、支援者の間でばかり子どもの理解や考えが進み、ときには肝心の保護者と本人が“蚊帳の外”になってしまうことがあります。</p> <p>そこで、会議の後は、保護者に会議の内容について報告をおこなうようにしています。</p> <p>その際、活用しているのが、「えみふるふぁいる」に綴じていただくことを意識した〈報告書〉です。</p> <p>この報告書を綴じていただくことで、いつ、どこで、だれがどんな話し合いをしたのか、報告であり、記録であり、後の支援者への引継ぎであるものとしての取り組みです。</p> <p>次に、療育支援教室での運用です。子育て総合支援センターでは、1歳半から3歳までの子どもを対象とした、月1回の療育支援教室として、「子ど</p>

	<p>もサポートうずら」を開催しています。</p> <p>うずらでは、利用開始時に、主訴や現在のお子さんの発達上の課題、何を支援していくかといった方針を保護者と話し合っています。</p> <p>これは、平成 30 年度のうずら発足当時からおこなっていることですが、今年度からは、その話し合いの内容を記載した〈調書〉を、保護者にもコピーをお渡しし、「えみふるふぁいる」に綴ってもらうようにしています。</p> <p>「うずらではこの課題に取り組めますよ」という療育の目的でいくんだということを、支援者と保護者でしっかり共有することが目的です。</p> <p>学校や療育機関が提供する個別の支援計画書も、これと同様に綴じていただくと、うずら以降も支援が繋がっていくものと期待しています。</p>
A	<p>今の説明について、皆さまから何かありませんか。</p> <p>使っていくときの課題、現場で感じている課題はありませんか。</p>
事務局	<p>扱っている件数は、多くないのですが、<u>シートは穴を開けてこちらがすすめると、すぐとじ込んでくれます。</u>希望して面談している方という面もありますが。</p>
A	<p>ほかに、無ければ、議事の（3）今後の方向性について、事務局から説明お願いいたします。</p>
事務局	<p>えみふるふぁいるは、配布してからまだ2年足らずで、保護者や学校を含めて支援者にも、行きわたっている状況ではありません。</p> <p>特に、1歳6か月健診で受け取ったお子さんには、3歳児健診時に、活用を働きかける機会がありますが、その後、小学校入学までの間、空白期間が出来ます。</p> <p>小学校、中学校の入学時には、各学校で準備する個別の教育支援計画が、えみふるふぁいると関連付けすることになっていますが、それまで、どうやって活用を啓発するかについて、2つの視点からご意見をいただきたいと思えます。</p> <p>1点目は、ふぁいるを持っている保護者向けにはどのような働き掛けがいいのか。</p> <p>2点目は、就学前の児童発達支援や就学後に学校での特別支援担当教諭など、支援者側の視点から、どのような働きかけをしていったらいいのかです。</p> <p>2つの視点からご意見をいただくうえで、参考となる取り組みを、資料5にもとづき、ご説明します。</p> <p>資料5をご覧ください。</p> <p>岩見沢市と同様に、ファイルを成長記録ならびに関係機関連携を目的に、子ども全員に配布をしている稚内市、美瑛町、当麻町について、まとめています。</p> <p>稚内市は、平成28年度から配布を開始し、学校教育部門が中心となって、</p>

	<p>教育研究所や教育相談所が関わり、モデル地区とモニター制を導入するなど組織的な取り組みを進めています。</p> <p>また、美瑛町と当麻町が配布しているファイルは、上川教育局が普及している『育ちと学びの応援ファイル「すくらむ」』ですが、学校教育だけでなく、子育て支援部門がともに普及に当たっています。</p> <p>稚内の「あゆみ」も、上川管内の「すくらむ」も学校教育を中心にした取り組みで、就学後の個別の教育支援計画とあわせて広めていくうえで、本市としても今後の参考になる事例だと思います。</p> <p>また、就学前についても、例えば、美瑛、当麻のどちらも、教育部門もしくは子育て支援部門の専門職が、幼児向けの各種教室などの場を使って、ファイルの普及に当たっていることなども参考になると考えています。</p> <p>以上、今後の方向性を考えるうえで参考となる取り組みをご紹介いたしました。</p>
事務局	<p>続きまして、資料2をご覧ください。今後の取組の方向性についてご説明致します。</p> <p>はじめに、保護者に向けた働きかけとして、資料に記載のとおり、3歳児健診以降は支援を必要としない場合、ふぁいるを使用する機会がないため、保護者の所持・活用するモチベーションを維持していくことが課題になります。</p> <p>また、幼年期の子どもを持つ保護者の多くは、相談機関へ持って行って、相談するというイメージを持っていないと思われ、発達支援の側面からはファイルの意義やメリットが伝わりにくい面があること、そうした状況からファイルの特性として子育てを楽しむためのツールでなければならないことなどを働きかけていく必要があると考えています。</p> <p>そこで、二つの視点を挙げさせていただきました。</p> <p>一つ目は「ファイルを持っている、どこかへ持っていく」ことのインセンティブを与えることも検討すべきではと考えています。</p> <p>例1は、あそびの広場で5歳児を対象に撮影会を開催して、持参したふぁいるにその場で撮った写真をお渡しし、ファイルに収納してもらい、記念品をプレゼントすることや、例2の子育て関連の行事や施設を巡るスタンプラリーに参加してもらい、プレゼントを進呈するなど、子どもが喜ぶ仕掛けも重要であると考えます。</p> <p>二つ目は、ファイルが使われる機会や場所、仕組みづくりであります。例1は、先ほどの当麻町にならったものですが、実際に子育て相談が行われる現場、地域の子育て支援センターや親子ひろばで説明や配付のほか、相談時</p>

	<p>にシートを使って、その場で活用を促していくものです。</p> <p>例2は学校向けの説明会でも意見がありましたが、全員がファイルを持っているこれかあ4歳を迎える子どもたちが、年長児に受ける就学時健診時のタイミングに、問診票などを手交し、ふぁいるを持参してもらう機会と捉えるものです。</p> <p>以上のような具体的な例のほか、皆さんの方からご意見をいただき、次年度以降の取組に反映していきたいと考えています。</p>
A	<p>まず、就学に至るまでにファイルの普及を目指すための取り組みです。それまでの間、保護者の意識の維持についてです。例にあげている、インセンティブについて実現性は高いのですか。</p>
事務局	<p>予算面で考えると、令和5年の要求に反映させることとなりますので、少し先になります。</p>
A	<p>ファイルを持っていくと、何かいいものがもらえるといいですね。</p>
事務局	<p>保健センターで取り組んでいる市民向けの健康ポイントの付与に似たイメージで考えています。</p>
B	<p>ファイルは、サイズが大きいから、例えば、3人くらい年の近い子どもがいたら、それだけでも荷物も増えるので、ファイルを持っていくのは面倒に感じます。</p>
A	<p>それを超えるインセンティブが必要だということですね。</p>
B	<p>使われる機会が増えるのは歓迎です。支援センターで穴をあけた相談シートをとじるのはいいかもしれませんが、<u>イベントに持参していくにはサイズが大きい。ですから、使える様にファイルをつくっていくことが大事です。</u>面談などの折には、事前にファイルを持参するよう記載しておくのはいいと思います。</p>
事務局	<p>就学時健診に持ってきて、その記録をつづるだけなら物足りなさを感じます。保護者としても持ってくる意義を見いだせるといいと思います。</p>
B	<p>例えば、幼稚園が<u>どんな情報がほしいのか、ぼんやりしているかも知れませんが、それをはっきりさせて、それに合わせた様式を入れておく</u>のいいと思います。医療やアレルギーなら、それに合わせた様式をつくっておき、ファイルにとじ込み、使えるようにフォームを変えていく必要があります。</p>
A	<p>支援者連携とも関わりますね。</p>
B	<p><u>何の情報がほしいのか、はっきりしておくのいいと思います。</u></p>
A	<p>情報を持っている人と関わる機会があればいいと思います。小学校、あるいは幼稚園、保育園では、持ってくることの大事さを楽しく感じられるよう、保護者に伝えることが大切だと思います。</p>
E	<p>幼稚園では、入園時に持ってきてもらえるようお願いしています。</p>

A	クラス分けなどのとき、担任のプロフィールをつづってもらうのはどうでしょうか。どのクラスにいたかの記念になります。 <u>何かをチェックするのはなく、記念になるものと思ってもらえることが伝えられるようにです。</u>
B	自分の経験からですが、学校でも誕生日に制服の写真をつづっておくのもいいかと思います。
A	ポートフォリオになるように、ご家族に大事にもらい、将来、子どもに渡せるようになるといいと思います。
B	学校の先生は忙しいかも知れませんが、 <u>学校でも穴を開けてつづれるようにしてもらえるといいかも知れません。</u>
E	1歳6か月健診時のアンケートにもあったのですが、育児のことなど、自分たちの記録としてはいいが、 <u>それを他人に見せるには抵抗があると感じました。個人情報を持ち歩いて、スタンプラリーなどに参加するなど考えると、また、ファイル自体を子どもに見せるのも抵抗があると思います。</u>
A	見せにくい情報もつづられる可能性があるということですね。
E	就園時には、園として必要な情報はいただいているので、それ以外の情報となります。
A	F委員、園から小学校への情報という点ではいかがでしょうか。
F	自分は、アプリよりも紙が好きです。私自身、活用はあまり出来ていなくて、幼稚園でつづってと声掛けてもらおうと助かります。
A	<u>個人情報を持ち歩くことの難しさは感じます。</u> 学校現場としてはどうでしょうか。
G	イメージはわかりませんが、就学時の相談で母子手帳といっしょにファイルを持ってくる例があります。ファイルに記録メモがあると、話がわかりやすい。 <u>小学校に入ることには、保護者も子どもの生育歴を忘れているケースがあります。個別の教育支援計画と紐づけするお子さんがいると、過去のデータが有効になると思います。</u> 全員持っていることの意義、イメージはわかりませんが。
H	中学校は、さらにその先です。さきほど、言葉の教室などでも配布していると聞きましたが、そうしたお子さんが、その後に中学校の特別支援学級に引き継がれる資料となるのですが、 <u>普通学級から名前があがってくるお子さんは、成育歴が大事になります。</u> 中学校の段階では、成長記録ファイルでなくて、特別なファイルになっていくと思います。そういうお子さんには、保護者に情報をもらうよう働きかけが必要になります。そうしたファイルの性質については、先に、オンライン研修を受けたのですが、まだ、ほかの職員には還元できていません。
A	そういうお子さんがあがってきたときに、ファイルは大事になりますね。
I	幼児期と学齢期とでは少し意味が変わると思います。個別の教育支援計画

	<p>は、発達支援ファイルになります。<u>小学校入学前の健診、就学時健診でも活用できないか、市教委とし受付担当をしている状況からも考えてみたいと思います。</u>そのとき持ってくるメリット、それをとじ込みながら、頑張ったね、良かったね、と言っておまけをあげることもできます。受付でインセンティブを設けることも方法としては出来なくはありません。</p>
H	<p>個別の教育支援計画は、特別支援学級のお子さんになります。通常学級のお子さんには作成していません。支援計画にたどり着けないお子さんの情報をためておいてほしいと思います。そういうファイルになれば、普通学級のお子さんにも必要になります。</p>
B	<p>高校生で不登校になると、中学ではどうしていたのか、特に大事です。</p>
H	<p>根はもっと小さなころにありますので、ファイルは有効です。</p>
B	<p>えみふるふあいは、大きくなった時に必要になる小さい時のことが伝わっていることが大事になります。<u>過去のことだけだと、お母さんがいないこともあります。母子手帳だけだと伝わってこないこともあります。お母さん、お父さんが変わっても伝えることが大事です。</u></p>
K	<p>診断を受けて、綴っておいてと言われて、そうする人としらない人がいます。綴られているものを外す人はいない。とっておいてほしいものは、つづって渡すことが大事だと思います。</p> <p><u>大事なものは、つづってくれるものだと保護者に思ってもらうなら、おまけがなくても綴られるものが増えると思います。</u></p> <p>母子手帳も保護者の記録には差があります。予防接種の記録など、病院で記入するものは、きちんとなっています。持ってきてくださいだけでなく、挟み込んで渡す。成長曲線であれば、4月だけは持ってきてもらい、園で曲線に書き込むなど、はさまって返してもらえれば、持つ意義が出てくると思います。幼児期にそういう習慣が出来ることが必要で、勝手に情報がたまるように考えてもらえばいいと思います、小学校では通知箋をはさむなどに変わればいいのかもかもしれません。大人になって、小学校からの記録がない人が多いので、とりだめしておき、<u>理想は勝手につづられるファイル</u>かと思います。</p>
A	<p>継続性をもってつづられていくのがいいですね。</p>
K	<p>支援者がほしい情報が綴られてほしい。</p>
A	<p>個人情報をつづることに抵抗を感じる保護者もいます。学校でも配慮が必要になります。ファイルのサイズも、持ち運びの問題もあります。それらをどう配慮が必要かはハードルになります。</p>
事務局	<p>小学校2年生ごろに、総合学習などの時間に自分のおいたちをつくる機会があります。自分を振り返るタイミングとなる資料という仕掛けも大事だと思います。</p>
A	<p>発達の時期が進むことによってファイルのあり方を変えていくためには</p>

	<p>少し時間をかけて、この先考えていくことが大事です。</p> <p>次に、飛ばしていた資料3の説明をお願いします。</p>
M	<p>昨年度は、この場で、オプションシート『心理検査（発達検査）や発音の検査の記録』の取組についてお話させていただきました。</p> <p>保護者の方には、シートをお渡しして、「幼稚園の先生にも、こんな検査を受けました、と「えみふるふぁいる」を見せてみてくださいね」と声掛けをしています。</p> <p>保護者は、そのとおりに実践してくれる方が多いのですが、それを見せられた保育園幼稚園や療育機関の皆さんからは、「あくまで保護者が自分で書いたものなので、園が欲しい情報は書かれていない」との声があがってきています。</p> <p>これはあらかじめ想定されていた反応です。</p> <p>心理検査の結果については、もともと、人伝いに簡単にお知らせするものではありません。</p> <p>保護者の言葉の使い方1つ、数字の伝え方1つで、かえって誤解を招き、子どもの正しい理解を阻害してしまうので、できれば直接検査をした専門職からお話させていただきたいものです。</p> <p>ですから、幼稚園保育園や学校、療育機関の先生方には、保護者から「こんな検査を受けました」と「えみふるふぁいる」を見せてもらったなら、「いつ、どこの機関で受けたのか」という情報をキャッチしていただき、保護者に「直接問い合わせてみてもよいですか?」とお願いしてみたいと思います。</p> <p>こうすることで、「えみふるふぁいる」が、連携のきっかけとして生きてきます。</p> <p>ただし、このときに、幼稚園や保育園の先生が「結果を聞いていいですか」と言うと、保護者は「調べられている」ようなネガティブな印象をもつ恐れがあるので、先生方には「園でも有効な支援の方法が知りたいから問い合わせたい」という言い方をお勧めしています。</p> <p>この点は、今年度も開かれた支援者向け説明会で地道にお伝えしてきていますが、今後も広めていく必要があると感じています。</p>
A	この相談記録は、各回ごとのイメージですか。
事務局	心理発達検査など、6回分を記録できる様式です。
A	<p>実際にとじこむ感覚で使われることがわかるといいですね。</p> <p>他に、ご意見はありませんか。無ければ、進行を事務局に戻します。</p>
	3 その他
事務局	閉会 19時30分

